

## 第6学年 国語科学習指導案

児童 6年1組 男19名 女16名  
指導者 村松麻美

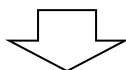
単元名

### 野田村の未来を考えてプレゼンテーションをしよう。

学習材名「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」(東京書籍6年) P129～P145

#### <主となる指導事項>

- ◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。(C読むこと(1)ウ)
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。(C読むこと(1)カ)
- ◎目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。(A話すこと・聞くこと(1)イ)



#### <付けたい力>

- ◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、筆者の主張に対して自分の考えをもつ力。
- 複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用する力。
- 意図に応じて、資料を効果的に活用して発表する力。

#### <単元の言語活動>

- ◎野田村のコミュニティデザインについて考えプレゼンテーションを行う。

### 1 単元について

#### (1) 子どもの実態

子どもたちは、「読むこと」領域の説明的文章を読む学習において、「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍6年)で、「筆者の考えを読み取り、文章に対する自分の考えを書く」という言語活動を位置付け、事実と意見との関係に注意しながら読み、そこから導き出される筆者の考えを中心に要旨を捉え、筆者の考えに対する自分の考えをもつ学習を行ってきた。「和の文化を受け継ぐ」(東京書籍5年)の学習では、いろいろな本や資料を、目的を意識して読み、伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明する学習を行ってきた。これまでの学習を通して、筆者の考えに対する自分の考えをもつことが身に付いてきてはいるものの、その考えを聞き手に分かりやすく伝えるために、複数の資料を読んで情報を活用し、図表や写真などの資料を活用して自分の考えを発表する力は十分に身に付いていない。

5月末に実施した国語科に関する意識調査の結果を見ると、説明的文章の学習に苦手意識をもつ子どもは全体の42%で、物語文の8%を大きく上回った。説明文の学習では、大事な言葉や文を文章の中から探すこと、筆者の伝えたいことを考えることに特に苦手意識をもつ子どもが多く、全体の60%を超えていた。

以上のことから、本単元では、「野田村の未来を考えてプレゼンテーションを行う」という言語活動

を位置付け、筆者の主張に対する自分の考えをしっかりともち、その考えを伝えるために複数の資料から読み取った情報を目的に応じて活用する力や、意図に応じて資料を効果的に活用して発表する力を身に付けさせたいと考えた。

## (2) 学習材について

本学習材は、コミュニティデザインという考え方の紹介を中心にしながら、大きな二つの視点に基づいて、事例を挙げて分かりやすく述べている。段落ごとのまとめも理解しやすく、説明内容に対応する図表や写真も、筆者の主張や事例を理解しやすくするために配置されており、後の表現活動に活用することができる。本単元は、「情報活用」の系統として位置付けられ、説明文を読んで興味・関心をもったことを本や資料などで調べる学習活動を取り入れ、単元に設定された目的や課題に応じて情報を活用することを目指している。自分たちの住む村の未来を考える上で、自分の考えをもつために学習材を読んでいくことが必要となる。また、並行読書として、野田村の未来を考えるときの参考にするために様々な街のコミュニティデザインについての本を読み比べ、自分の考えを明確にしたり深めたりできるようにしたい。

## (3) 言語活動の特徴と指導事項との関連

本単元では、「野田村の未来について考えてプレゼンテーションを行う」という言語活動を設定した。プレゼンテーションを行う場合、まず、自分の考えをもち他者に伝えたいという思いが大切になる。学習材を読みながら、2つの観点について筆者の主張を読み取り、それに対する自分の考えをもつことで、誰かに伝えたいという思いをもたせる。また同時に、それらを伝えるために資料を選んだり、様々な本や文章を比べて読んだりしながら必要な情報を集める力が必要となる。集めた情報を自分の発表の目的に合わせて取捨選択したり、加工したりする力も大切である。その情報をいかに効果的に示し、分かりやすく説明するかというプレゼンテーションに必要な力や、複数の資料から読み取った情報を効果的に活用できる力を身に付けさせたい。

## (4) 指導に当たって

第一次では、学習材の題名や表紙の写真や文章からこれからの学習内容を想像し、P130の内容を読んで、野田村の未来を考えてプレゼンテーションを行うという見通しを立てる。これまでの総合的な学習の時間で学習した、野田村の復興や防災についての学びを想起させ、これから学習を進めるときの手掛かりとする。

第二次では、「町の幸福論」を読み、本文の内容を読み取っていく。本文を読み、序論・本論・結論の文章構成を捉え、文章の内容を読み取るとともに、図表などの資料の用いられ方とその効果を確認するなど、これまでの既習事項を振り返りながら学習を進めたい。筆者のメッセージを踏まえて町の未来について、コミュニティデザインという視点で自分の考えをもてるように文章の要旨を読み取らせる。その際、筆者が「豊かさ」について「人と人とのつながり」という観点から意見を述べていることを押さえ、自分たちが発表する際の参考にすることを伝える。また、学習材の読み取りの学習と並行して、町作りについての本や資料などの並行読書も行い、自分たちがプレゼンテーションする際の参考になるものには付箋を貼るなどして、選んだり読み比べたりできるようにする。

第三次では、第二次での学習や並行読書で読んだ本や資料から情報を集め、野田村の未来についてプレゼンテーションを行う準備をする。P140に挙げられている観点に沿って、自分たちが描く野田村の未来についてグループごとに話し合い、考えをまとめる。野田村の未来の姿について考えたことを基に情報を集め、収集した情報を整理し、どの事例を挙げてどんな提案をするかを話し合う。それと同時に学習材で学習したことを想起させ、写真や図表、グラフなど、資料として用いるものについてどのようなものがよいかも話し合う。発表する内容が決まったら、教科書の例を参考にしながら、話す順序や伝え方を考えながら資料を作成し、プレゼンテーションの練習を行う。練習する前には、教科書の話例を聞かせたり、実際のプレゼンテーションの映像を見せたりして、聞き手に提案のよさが伝わる話し方の工夫を考えさせたい。

第四次では、グループごとにプレゼンテーションの発表を行う。話し手は聞き手の反応を確かめながら話したり、聞き手は自分たちのグループで考えた提案や調べた事例と比べて考えながら聞くように意識付けたりしながら進めたい。発表後は、提案の内容について考えたことや発表の構成の分かりやすさ、資料の使い方の工夫について感想を述べたり助言や提案をしたりする。振り返りでは、助言や提案を確かめ自分たちの発表を振り返らせる。振り返りで、自分の考えを広めたり深めたりすることで、総合的な学習の時間で学習する「野田村の魅力再発見」の学習につなげたい。

## 2 単元の指導目標と評価規準

- 自分たちの町の未来に関心を持ち、学習材や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨を捉え、自分の考えを明確にしながら読むことができる。 【読むこと（1）ウ】
- 目的に応じて、複数の本や資料を選び、比べて読むことができる。 【読むこと（1）カ】
- ◎目的に応じて、話の構成を工夫し、場に応じた適切な話し方で話すことができる。 【話すこと・聞くこと（1）イ】
- 目的に応じた文章の構成について理解することができる。 【伝国（1）イ（キ）】

### [評価規準]

国語への関心・意欲・態度	読む力	話す・聞く力	言語についての知識・理解・技能
○野田村の未来に関心を持ち、コミュニティデザインについて学習材や本、資料を読んで調べ、その内容を相手に伝えようとしている。	◎目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、筆者の主張に対して自分の考えを明確にしながら読んでいる。 ◎目的に応じて、複数の本や資料を選び、比べて読んでいる。	◎聞き手にわかりやすく伝えるためにプレゼンテーションの構成を工夫し、考えたことや伝えたいことを整理して場に応じた適切な話し方で話している。	○説明文の構成について理解している。

### 3 単元の指導計画（全13時間）

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価とその方法
一	1	○教科書の写真や文章から学習材の内容について想像する。  ○学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	・これまでの復興学習について触れながら、「町」や「未来」というキーワードを押さえる。  ・「野田村の未来について考えて考えプレゼンテーションをする」という学習課題を確かめる。	関 学習材の内容に関心をもち、プレゼンテーションをするという学習課題を確かめ、進んで学習に取り組もうとしている。 (行動観察・発言)
二	2	○学習材の構成を確認し、大まかな内容をとらえる。  ○筆者の主張に対する自分の考えを書く。	・教科書の文章構成図を手掛かりに構成を確かめる。 ・筆者が「豊かさ」についてどのような観点で意見を述べているかを考え、自分たちの発表のときの参考にさせる。 ・筆者の主張がどこに書かれているかを話し合わせる。	読 学習材の構成を捉え、序論の内容を読み取っている。(発言・ワークシート) 言 目的に応じた文章の構成について理解している。(発言・ワークシート)
	3 ・ 4	○本論を読み取り、コミュニティデザインにおける重要な2つの点を押さえる。  ○資料(写真・グラフ・表・図)の効果について考える。	・学習材に出てくる市や町の事例を読み取り、コミュニティデザインにおける重要な2つの点を読み取らせる。 ・写真やグラフなどを文章と結びつけながら、それぞれの効果を考え、自分たちの発表のときの参考にさせる。	読 読み取ったことから調べることへの手掛かりをつかみ、どのような資料や本の情報を集めていくかを考えている。(情報メモ・行動観察)
	5 (本時)	○筆者の主張を確かめ、具体的なイメージをもつ。  ○筆者の主張に対して自分の考えを書く。	・前時までの学習を踏まえ、筆者の主張をより具体的に捉えさせるようにさせる。 ・交流することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。 ・自分の経験や知識と関連付けながら考えさせるようにする。	読 文章の要旨を捉え筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。(発言・ワークシート)
三	6 ・ 7	○野田村の未来について考え、プレゼンテーションでどのような提案をするかグループで話し合う。	・自分で考えたアイデアをグループで出し合いながら、P140に挙げられている観点に沿って提案することや調べたいことを話し合わせる。	読 目的に応じて複数の資料を読み、情報を関係付けて活用している。(発言・ワークシート・メモ)

並行読書

		<p>○複数の資料を読み、プレゼンテーションに必要な情報を集める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの並行読書で読んできた本や資料の内容も参考にさせる。</li> <li>・集めた情報を関連付けて提案を考えるようにさせる。</li> </ul>	<p><b>読</b> 様々な資料を、調べたい情報を集めるために、読み方を工夫して読んでいる。 (行動観察・ワークシート)</p>
	8	<p>○集めた情報を整理し、提案することや事例を決める。</p> <p>○プレゼンテーションに必要な資料を話し合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「構成メモ」例や話例などを基に提案の内容や事例の取り上げ方を押さえる。</li> <li>・提案する内容を短い言葉でまとめて明確にさせる。</li> <li>・提案の内容にふさわしい事例を選ばせて資料として用いるものについても考えさせる。</li> </ul>	<p><b>話聞</b> 調べて分かったことや考えたことを関連付け、提案の内容や事例、必要な資料について考えている。 (行動観察・メモ)</p>
	9	<p>○プレゼンテーションの構成を決め、必要なスライドを作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「構成メモ」の例を参考にして提案や事例等を話す順番に整理させる。</li> <li>・話のまとめりごとに、一番伝えたいことをより分かりやすく短い言葉でまとめさせる。</li> <li>・意図を明確に伝えるのにふさわしい情報に絞ってスライドを作成させる。</li> </ul>	<p><b>話聞</b> 意図が伝わるように情報を選んで話の構成を工夫し、必要なスライドを作成している。(構成メモ・スライド・行動観察)</p>
	10	<p>○教科書の話例を参考にしながら、聞き手に提案のよさが伝わるように、話し方の工夫を考える。</p> <p>○プレゼンテーションの練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の話例や実際のプレゼンテーションの映像を参考にして、話し方の工夫を考えさせる。</li> <li>・話し方や資料の見せ方など、工夫したい点を具体的に押さえておく。</li> <li>・練習の様子を撮影したり、発表の仕方を助言し合ったりしながら、不自然なところはないか振り返りながら練習を進めさせる。</li> </ul>	<p><b>話聞</b> 資料を効果的に活用して、分かりやすく話す工夫を考えて、プレゼンテーションの練習をしている。 (プレゼンテーション・ワークシート)</p>
四	11 ・ 12	<p>○聞き手の反応を確かめながら、グループごとにプレゼンテーションを行う。</p> <p>○他のグループの提案について理解し、自分の意見と比較</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿を暗唱するのではなく、聞き手の反応を確かめながら話すように意識付ける。</li> <li>・自分たちの提案や事例を比べて考えながら聞くように意識付ける。</li> <li>・提案に対して事例や資料が適切か</li> </ul>	<p><b>話聞</b> 聞き手に意図が伝わるように、話の構成や資料の見せ方を工夫して話したり、話し手の意図を捉え</p>

	べながら聞く。	考えながら聞かせる。 ・発表後に、考えたことや構成の分かりやすさ、資料の使い方の工夫などについて感想を述べたり助言や提案をしたりさせる。	て自分の意見と比べながら聞いたりする。(プレゼンテーション・行動観察・メモ・発言)
13	○学習の振り返りを行い、自分の考えを広めたり深めたりする。	・前時で聞き手から出た感想や助言、提案をまとめ、自分たちの発表を振り返らせ、総合的な学習の時間で学習する「野田村の魅力再発見」の学習につなげることを伝える。 ・学習を通して分かったことや身に付いたことを確かめる。	<b>話聞</b> 資料を活用して、意図が明確に伝わるような発表をするために大切なことを理解している。(発言・ワークシート) <b>読</b> 発表内容を考えるという目的に応じて、複数の情報を活用することを理解している。

#### 4 本時の指導 (5/13)

##### (1) ねらい

筆者の主張に対する自分の考えをもつことができる。

##### (2) 展開

	学習活動・学習内容	指導の手立てと評価
導入	1 本時の学習課題を確認する。 筆者の主張に対する自分の考えをもとう。	
5分	2 前時までの学習を振り返りながら、課題解決の見通しをもつ。	○筆者の主張に対する自分の考えが、プレゼンテーションにつながることを押さえる。 ○ワークシート等で、前時までの学習を押さえる。 ○筆者の主張を具体的に読み取り、交流を通して自分の考えをまとめるという、本時の授業の流れを確認する。

<p>展 開</p>	<p>3 学習課題を解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 筆者の主張を確認する。</li> <li>• これまでの学習を振り返りながら、筆者の主張をより具体的に捉える。</li> <li>• 筆者の主張を受けて自分の経験や知識を基に自分の考えを書く。</li> </ul> <div data-bbox="256 546 839 775" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>&lt;書く観点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○考えのまとめ方</li> <li>• 筆者の主張に対する自分の考え</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グループごとに自分の考えを交流する。</li> <li>• 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○要旨やこれまでの学習を振り返りながら筆者の主張を具体的にイメージさせ、自分の考えをもてるようにする。</li> <li>○自分の考えがもてない児童には、並行読書の資料などを参考にさせる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○他者の意見を聞きながら、メモを取るなどして自分の考えを深められるようにする。</li> <li>○交流を通して友達から学んだことも入れながら最終的な自分の考えをまとめられるようにする。</li> <li>○筆者の主張に対する考えだけではなく、野田村のコミュニティデザインについても考えをもつことができるようにする。</li> </ul>
<p>30 分</p>		<div data-bbox="868 1312 1474 1765" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>&lt;評価規準&gt;</p> <p>A 筆者の主張に対して、友だちと自分の意見を結びつけて、自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>B 筆者の主張に対して、自分の経験や知識などと関連付けながら自分の考えをもっている。</p> <p>Bに到達させるための手立て</p> <p>文章全体ではなく、序論や結論部分の内容から、筆者の伝えたいことは何かを問いかける。</p> </div>

<p>まとめ</p> <p>10分</p>	<p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りをする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;ふり返りの観点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎課題解決に対する自己評価</li> <li>◎交流について</li> </ul> </div> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を見ながら、次時はグループごとにごのような提案をするか、資料を使いながら話し合うという見通しをもつ。</li> </ul>	<p>○本時の学習を振り返り、自己評価をして自分のがんばりや学習の成果を実感し、成就感をもつことができるようにする。</p> <p>○学習計画表に振り返りを書かせる。</p> <p>○本時のねらいにかかわる振り返りを行っている児童を意図的に指名し、価値付けを図る。</p>
-----------------------	---	--

## 5 板書計画

町の未来をえがこう

町の幸福論—コミュニティデザインを考える

課 筆者の主張に対する自分の考えをもとう。

一 筆者の主張を確かめる

わたしたち一人一人が、未来の町の姿をえがき、その姿に向かいながら主体的に町作りに取り組むとき、そこには本当に豊かな「町の幸福」が生み出される。

未来の町の姿がく？…島留学の制度をつくった。

主体的に取り組む？ …土祭に市民自らが中心となって取り組む。

有馬富士公園を住民参加型でつくった。

本当の豊かさとは？ …物やお金ではない。

人と人がつながりを感じられること。

二 自分の考えをもつ

本当に豊かな町の幸福には、・・・

三 考えを広げたり深めたりする

四 筆者の主張に対する自分の考えをまとめる

本当に豊かな町の幸福には、・・・

五 ふり返り

① 課題解決について

② 交流を通して学んだこと